

平成二十六年年度 卒業式 式辞（平成二十七年三月二日）

校舎から仰ぎ見る 医王の峰は、まだ幾分、残雪に覆われてはおりますが、  
日 一日と、陽射しも明るくなり 新しい春の訪れを 感ずることが  
できるようになりました。

本日、ここに、多数のご来賓、保護者の皆さま方の ご臨席を賜り、  
遊学館高等学校、第十九回卒業証書授与式を 盛大に挙行できますこと、  
心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました、三七〇名の卒業生の皆さん、  
卒業おめでとうございます。

思い起こせば、三年前、皆さんは、真新しい制服に身を包み、  
これから始まる高校生活に、大きな期待や不安を胸に秘めながら  
本校の校門をくぐったことと思います。

皆さん 一人ひとりにとって、本校で過ごした三年間は  
どのようなものであったでしょうか。

難関大学 現役合格をめざし、毎日の授業や遊学講座はもちろんのこと、

夜遅くまで スペシャル講座に参加し 一生懸命 勉強を頑張った人、  
部活動で県一位、全国一位を目標に、仲間とともに 厳しい練習に  
歯を食いしばり 最後まで打ち込んだ人、

また、体育祭や学園祭、修学旅行などの学校行事に  
持ち前のリーダーシップを発揮し、

互いの連帯感を強め 楽しい思い出づくりに 貢献してくれた人、

あるいは、毎朝 清々しい挨拶を交わしてくれた人、

優しい気持ちでいつも友人を 思いやってくれた人 など、

ここにいる すべての皆さんが それぞれ、立派に 逞しく  
成長してくれました。

そして、今日が、いよいよ本校で過ごす 最後の日となりました。

さて、日本の総人口は、統計によりますと、二〇一三年 十月現在では、  
一億二千七百万人余りでしたが、これから減少の一途をたどり、

皆さんが 五十三歳を迎える 三十五年後の二〇五〇年には  
ついに、一億人を割り込み、

「高齢化率」 六十五歳以上の人口が 総人口に占める割合も

四十%に近い水準となること が 推計されています。

少子高齢化をとまなう 人口の減少は、働き手や 納税者の減少、

購買力の低下をもたらし、日本の社会全体を 縮小させるとともに、

国家予算に占める 年金や医療費等の 社会保障費の割合を大幅に引き上げるといふ結果となって現れてきます。

今、日本の 一番の大きな問題点は ここにあると考えられています。

そのような日本の近未来では、否が応でも 社会・経済のグローバル化が更に加速されることになると思われれます。

そして、それに対応できる人材の育成が急務となっています。

石川県も 来週には北陸新幹線が開業し、東京との時間的な距離も

大幅に縮まり、人的交流が更に深まるとともに、都会の波が 今より

遙かに勢いよく 押し寄せてくることが予測されます。

グローバル化に対応できる人材とは、まずは、英語を中心とした語学力、二つ目に、他者とのコミュニケーション能力、

そして情報処理能力を手段として、

どのような状況下でも 自分の人生を切り拓いて行ける人といわれています。

このような人材が、これからの日本には求められています。

今までのように 小さな地域社会の中で、すべてが完結できる時代はもはや 終わりを告げつつあります。

これからの日本を生き抜いて行く 卒業生の皆さん、

今は、なかなか想像はできないことはありませんが、

近い将来、必ずそのような時代が訪れます。

そのために、今から主体的に多くのことを学び・経験し、  
本校の三年間で培った「遊学の精神」

何ものにもとらわれず、

自由に 広く世の中を見聞し、

人格を高め 磨いていく精神を 忘れることなく、

そして、本校卒業という 自信とプライドを持って、自らの人生を 力強く  
切り拓いて行って もらいたいと願っています。

(中略)

それでは、卒業生諸君の 今後の健康と ますますの活躍とともに、  
皆さまの前途に 幸 多からんことを祈念し、式辞といたします。